

## 口 頭 弁 論 要 旨

舞鶴に住んでいます迫田薫と申します。私は、2000年に発足した「エコネットまいづる」という市民団体の事務局長をしています。「エコネットまいづる」は環境をテーマに活動している団体で、原発も一つのテーマとしています。

私の居住地は、直線距離で高浜原発から15Km、大飯原発から30Kmのところにあります。仮に、大飯原発で、過酷事故が起こった場合、その影響は広範囲に及びます。舞鶴市が作成した避難計画は被爆が前提となっており全市民が安全に避難できない計画であり、大飯原発の再稼働は認めるべきではありません。

高浜や大飯で原発事故が発生すると、原発に対する態度に関係なくすべての市民が避難しなければなりません。舞鶴市の避難計画はどうなっているのか、私はそのことについて意見を述べます。

**【舞鶴市避難計画の問題点】**

舞鶴市は、2013年「原子力災害住民避難計画」を発表、2016年改訂しました。市民への説明会は何回か開かれましたが、参加者は自治会長などに限定され、合せても3千人程度、市が直接地域の要請で行ったものを含めても説明を聞いたのは人口の数%にすぎません。舞鶴市は、平成28年概要版(小学校区別、A3版両面刷り、二つ折り)を新聞折り込みで市民に配布しました。今日、新聞を購読していない市民も多く、とても全市民に周知されたとは言えません。このことに端的に示されているように、舞鶴市の避難計画の最大の問題点は、多くの市民が知らないため、事故が発生しても計画通り避難できない、市民の多くが被曝してしまう計画だと言えます。

私が所属するエコネットまいづるは、毎年避難計画を含む要望書を提出し、担当部署との意見交換を求めてきました。その中で主張してきたのは、放射能漏れを伴う原発事故が起これば、原発に反対でも賛成でも避難しなくてはならないということです。そのためには、全市民が避難計画の内容を知っていることが大切です。市が全市民を対象にくりかえし説明会をもつことはもちろんですが、私達は全市民が参加する避難訓練を行い、シュミレーションすることを提案しています。しかし、市はできないと言います。市民に知らせることを恐れているのではないかと思います。実際に避難訓練を行えば、「こうした方が良い」「ああした方が良い」という意見が出てくると思います。このことを通じて市民みんなで避難計画を作り上げることが大切

なのでないかと思えます。また訓練を通じて原発事故の現実感が高まります。

私の場合を例にとると、計画ではまず屋内退避、それから順次避難集結場所に集まることとなります。しかし、避難集結場所に移動する際に、誰がどのような連絡手段によって、市民に伝えるのか具体的に明らかになっていません。そのために、私達エコネットまいづるは、全戸に防災無線を設置することを求めています。国の補助制度もあり、舞鶴市の大きな財政負担はなしで設置できますが、市はかたくなに拒否しています。最近になって地域のFM放送の利用が言われはじめました。しかし、多くの高齢者はFM放送など聞いていませんし、多くは、「ホームページ」「スマホ」「LINE」等利用したことのない情報弱者です。

このように、市に多くの意見を出していますが、それでも実際に避難できる計画を作る事は難しいと考えています。

#### 【避難集結場所の問題について】

避難集結場所に集まった後、避難先にバスで移動する事になります。避難集結場所は、私の住んでいる余内(あまうち)地域では、日星高校、余内小学校、文化公園体育館と3カ所あります。私の場合、集結場所の日星高校までは約2Kmあります。私は車で移動できますが、車もなく歩くことも困難な高齢者は、移動することは困難です。地域でお年寄りに聞いたら、「バスで迎えに来てくれるのか」、「バスで迎えに来てもらえないのであれば、歩いては行けない」と言われました。市に「バスで迎えに来てもらえるのか」について聞くと「近所の車に乗せてもらってくれ」と冷たく自己責任と言わんばかりの回答でした。

このように、具体的に一人一人の市民がどうやって、避難集結場所に移動するのか、事前に決めておかないと避難はできません。仮に、自家用車で集結場所まで行った人もその車をどこに置くのか、駐車場はありません。市に聞くと近所の公園などに駐車すれば良いといいますが、具体性はありません。

市民は、避難集結場所に来たバスに順次乗って避難先に向かうこととなります。バスは来るのか、市は足りない分は関西広域連合に依頼するといっていますが、福島ではバスの台数は確保できたが、運転手が汚染された地域に行くことをいやがったと聞いています。また3000人からの集結場所になっている余内(あまうち)小学校などは周辺の道路が、大型車通行禁止で、学校に大型バスを横付けできません。50台を超えるバスをどこに駐車する

のか、道路には止められません。市にどうするのか、聞いても答えはありません。計画では、バスに乗らないで自家用車で避難先まで行く場合も想定されていますが、避難先に駐車場はありません。また、避難先まで100キロを超える道路の渋滞が想定されますが、その間のトイレはどうするのか、聞いても答えはありません。このように、問題点は、山積みであり、実際に、避難することになれば、もっともっと沢山の現実的な問題が出てくると思います。

避難集結場所に集まる人数は、2016年の資料で少し古いですが余内小学校3528人、日星高校933人、文化公園体育館2708人となっています。この人数を誰がどう仕切るのかというのもよくわかりません。一カ所に配置できる市の職員は3人程度だといえます。このような少人数で対応することなど出来るはずがありません。自治会や消防団の役員が協力しても事前の訓練をしておかないと混乱することは目に見えています。市は、お年寄り、障害者の具体的人数を把握しているのでしょうか。

### 【ヨウ素剤の配布について】

加えて、ヨウ素剤の配布問題があります。ヨウ素剤の配布は避難集結場所で問診をして配布し、服用することになっています。問診をする医療従事者は配置できるのか、市に聞くと保健師を配置すると回答がありましたが、市の保健師は30人あまりで、避難集結場所よりも少ない人数で足りません。

また、問診自体にとっても時間がかかるため、何千人もの問診を一人で行うのは、難しいと思います。訓練で100人あまりに配布するのに1時間かかったという報道もありました。3000人を超える配布にどれだけ時間がかかると考えているのでしょうか。避難のためあつまってきた市民が入れる建物はなく、グラウンドで並ぶことになれば被曝が心配されます。この点について、説明会で質問をしたら、順次バスに乗って避難先に移動するため、3000人が一堂に集まることはないといわれましたが、計画ではヨウ素剤の配布を受け服用してからバスに乗ることになっており、被曝が避けられない計画です。安定ヨウ素剤は被曝するまでに服用しないと効果がないと言われておりそのようなことを考えると、私達は希望する市民に事前に配布しておくことを要望していますが、市は副作用を理由に事前配布を拒否しています。

### 【避難における問題】

福島では、車の燃料を運ぶタンクローリーの運転手が、汚染された地域まで行ってもらえなかったと聞きました。そんなとき大型免許を持っている市

民にお願いをしてタンクローリーを運んだそうです。そのような事前の準備も必要ではないかと私達は市に要望しています。

さらに地震などの複合災害で道路の通行止め、特に子どもや家族を迎えに行く車も多いことを想定しておく必要があります。

加えて今日、新型コロナの感染拡大で避難集結場所や避難先で「三密」をどうして避けるのか、避難集結場所に集まったとき雨が降るかもしれません。気温が低く寒いかもしれません。あらゆる想定をしておくことが必要だと考えられます

以上は、現在示されている舞鶴市の避難計画のほんの一部ですが、この計画では市民が被曝しないで避難することはできないと考えています。

### **【最後に】**

ではどうしたらいいのか、最もいいのは原発を稼働させないことです。そして「原発は稼働していなくても、そこに使用済み核燃料がある限り、保管されているプールの冷却水が地震で漏れれば、燃料自体が発する熱でメルtdownが起る可能性があります。高い放射線量で人間は近づけなくなります。最悪の場合舞鶴のみでなく、日本が人の住めない国になってしまうことも考えられます。

全市民が被曝しないで避難できる計画を作り上げることが求められています。私達はその努力を続けたいと考えています。

裁判官の賢明な英断を心からお願いします。

以 上